



ニュース&トピックス

No.2025-103

(2025. 12. 18)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

東北支店 塚原 重幸

022-225-8386

s1000790@FacetoFace.ne.jp

ひまわり信用金庫の地域企業と連携した取組み

—燃料電池教室の運営協力について—

ポイント

- ひまわり信用金庫（以下、当金庫という。）は、2016年より一般社団法人いわきバッテリーバレー推進機構（以下、IBV推進機構という。）に協賛、今年度よりいわきバッテリーバレー実現地域連携協議会（以下、協議会という。）構成員として地元小学生を対象とした「燃料電池教室」の運営に協力している。
- 「燃料電池教室」は、地元企業（東洋システム、常磐共同ガス）、市役所、商工会議所、および当金庫等にて構成される協議会が主催するもので、バッテリー産業や環境に配慮した次世代エネルギー等にかかる知識を深める体験型イベントである。
- 地元小学生が2日間で約200人参加し、燃料電池の作成やウェブ工場見学、各種体験イベントを通じて、地元産業の魅力や社会貢献について理解を深めた。
- 参加小学生からの意見として、大半の参加者が「楽しかった」と回答したほか、保護者からは「滅多にない教育機会であり、子どもたちも大変喜んでいた」との声があった。

1. IBV推進機構と当金庫について

IBV推進機構は、復興支援の一環として福島県いわき市を中心に「蓄電池を軸とした次世代エネルギー産業拠点」を作り、持続可能な地域づくりを目指す組織である。若年層の県外流出や蓄電池産業が南海トラフ地域に集積している現状を課題視し、庄司秀樹代表理事（東洋システム株式会社社長）が「いわきバッテリーバレー構想」を提唱し、地元企業や関連省庁等の理解を得て2015年に当機構が設立した。①地域の活性化、②若者の地元雇用の創出、③持続可能な魅力あるまちづくりを目的に、関連企業の誘致や企業・地元高専と連携したセミナーの運営等、多様な活動で地域振興に努めている。今年度より、地域産業の発展や人財の育成に資する事業を実施するため、IBV推進機構の構成団体として協議会が設立された。

当金庫においては、「中小企業の育成・発展」、「豊かな国民生活の実現」、「地域社会繁栄の奉仕」という信用金庫の使命と、IBV推進機構の目標に結び付きがあることから、2016年より同機構の幹事として運営に参加した。金融サービスを通じて地元産業の発展に貢献しているほか、産官学連携イベントへの協力を通じて、継続的に支援している。

2. 燃料電池教室について

燃料電池教室は、②若者の地元雇用の創出の一環として、次世代エネルギーの理解、

(図表1) ひまわり信用金庫の概要 (24年度末)

本店所在地	福島県いわき市
設立	大正12年（1923年）10月
預金残高	2,544億円
貸出金残高	948億円
店舗数	17店舗（うち出張所1カ所）
常勤役職員数	162人

（備考）信金中央金庫 東北支店作成

次世代を担う子ども達のモノづくりへの興味・関心を育む目的で開催している。地元小学生および保護者からの人気が非常に高く、毎年参加者を抽選のうえ実施しており、今年度で9回目を迎えた。当金庫に加え、地元企業2社、いわき市および商工会議所が協賛し、イベント内容についてはトヨタ自動車の燃料電池車 MIRAI 制作チームが監修した。当金庫は全体の運営協力ほか、入庫2年目以内の若手職員6名が燃料電池づくりの講師を務めた。開催日の5か月前から準備を進め、子供たちが理解しやすい説明方法について検討し、安全に運営できるよう、本番を想定した練習を重ねた。

第一部は、トヨタ自動車による研修道具の貸与のもと、東洋システムや当金庫職員等が講師を務め、小型燃料電池の作成を行った。第二部では燃料電池車 MIRAI のウェブ工場見学により、バッテリー産業への理解を深め、第三部では、バッテリー産業の理解を深める各種体験会のほか、プログラム修了者に対する認定証授与式が行われた。

(図表2) 燃料電池教室の様子



【第一部：小型燃料電池作成】

【当金庫職員が講師を担当】



【第二部：ウェブ工場見学内の実習】

【第三部：認定証授与式】

(図表3) 教室概要

名称	燃料電池教室2025～MIRAIの動く仕組みを学んで体験
日時	2025年11月1日、2日 9:00～17:00
会場	いわき市中央台公民館
主催	いわきバッテリーバレー実現地域連携協議会
協力	ひまわり信用金庫、東洋システム株式会社、常磐共同ガス株式会社、いわき市、いわき商工会議所
監修	トヨタ自動車株式会社
プログラム	燃料電池教室、トヨタ工場web見学、ぐるぐる充電、ラジコン操作、水素タンク見学、認定証授与式
参加者	いわき市内の小学1年生～6年生および保護者

(備考) 信金中央金庫 東北支店作成

3. 評価

(図表4) 参加者からの感想

小学生	<ul style="list-style-type: none"> 水素で動く車を作れて楽しかった。（10歳未満女性） 理科の勉強を頑張って、もっと大きなバッテリーを作りたい。（10代男性） 水素と酸素で作る環境にやさしいエネルギーがあることを知れてよかったです。（10代男性）
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにいろいろな経験を与えるいい機会であると感じる。（30代男性） 日頃から理科に関心がない子どもでも、楽しく学ぶことができるイベントであり、参加してよかったです。（40代女性）
地元企業	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小学生が笑顔で自ら学ぶ姿勢が見られ、良い機会を提供できた。 子どもが分かりやすいように、説明を工夫したが、楽しんでいた姿勢が見られてよかったです。 いわき市の発展のため、若い世代の育成につながる。

本教室は、多くの小学生がモノ作りを楽しみながら、環境に配慮したエネルギーの存在や蓄電池の生活との関わりを学んだ。保護者からは、貴重な学習機会の一つとして高く評価されている。今後も各機関による連携のもと、開催を続けることで、地域社会繁栄に寄与すると思料される。

4. 今後の方向性

IBV 推進機構は、今後も本教室を開催し、地域の小学生に向けてバッテリー産業の学習機会を提供し続けるとともに、中高生との接点も強化していく。市内の工業高等専門学校等を対象に、次世代エネルギーの基礎構造や製造技術を習得させることを目的とした「いわき EV アカデミー」や、地域の脱炭素社会を担う専門人材を育成する「いわきカーボンニュートラル人財育成コンソーシアム」（当金庫は幹事会社として参加）に学生参加を促すことで、未来のエンジニアを育てる活動を強化していく。

当金庫は、地域社会の維持・発展のため、地元企業の成長や企業誘致に伴う創業等に向けた金融サービスを行うことに加え、燃料電池教室やコンソーシアムへの参加等、金融支援に限らないサポートにも努めていく。

(図表5) いわきカーボンニュートラル人財育成コンソーシアムの様子



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがいまして、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。